



見て 聞いて 感じて

10月30日から2泊3日で6年生が修学旅行に行ってきました。鎌倉での班別行動をはじめ、普段学校では学習できないことを体験したり、学校での学習を深めたりする良い機会となりました。学校教育における修学旅行の目標は「学習の場であること」「より良い人間関係を築く場であること」「公衆道徳などについて体験を積む場であること」となります。今回の修学旅行の取り組みには企画段階から子供たちも参画し「自ら作る修学旅行」をめざしてきました。その成果は十分達成でき、全員にとって思い出に残る修学旅行となりました。私は結団式の時に「期待しかしていない」とことと「大きな成長を願っている」とことを伝えさせてもらいました。51名の子供たちは思いっきり楽しんだ3日間となったと思います。もちろん事前学習から、まとめまでの学習が充実したことは言うまでもありません。

さて、ここで少し目指すべき修学旅行についてお伝えしたいと思います。小学校生活での一大イベントである修学旅行は、子供たちにとっても楽しみにしている学習の一つです。そこに子供たちの考えや意見を反映することは、当然だと思っています。気を付けないと教師が行先まで全て決めてしまい、子供たちはそこに乗っかるだけの修学旅行を見聞きすることがあります。学校教育の主役は子どもたちです。だからと言って子供たちの考えや意見をなんでもすべて聞きますよ！というわけではありません。そこには学びの意図や考えがあります。一つ一つに学校としても考えがあり、それを担任や学年などが工夫し、子どもたちと一緒に作っていきます。そのすべてが「学び」となります。時には子供たちの考えを修正したり、付け加えたりしながら最終的な形に整えていきます。特に修学旅行のように事前学習から長い期間をかけて取り組む行事には、しっかりとした対価を考えなければなりません。子供たちに「楽しかった」の意味をしっかりと考えさせることが大切になります。

話は戻りますが、旅行中にもいくつも印象的な場面がありました。その一つは、1日目の宿舎でのことです。私が夕食会場に行くと全員のスリッパが揃っていたことです。もしかしたら最初の教員が声をかけたかもしれませんが、その後から来る子供たちもきちんと揃えてあったんです。最初は揃っていても後からだんだん崩れてしまうことが多いのですが、最後まで揃っていることは素晴らしいと思いました。また、その後に食事会場から出入りする際に乱れたスリッパを揃えてくれた子供もいました。旅行の先々で、困っている友達に優しく声をかけたり、直接手助けをしたりする姿に、改めて6年生の優しさを感じることができました。外に出た時に普段の学校生活がそのまま表れます。そのほかにもたくさんの子供たちの姿を見ることができ、うれしく思っています。いつもお話ししていますが、6年生の姿が大明小学校6年間の学校教育の集大成です。地域、保護者、そして学校の3者がしっかりと子供たちに向き合っていることの素晴らしさを感じています。

